

令和4年度 第1回 伊勢市男女共同参画審議会 会議概要

日 時 令和4年6月16日(木) 10:00~12:00

場 所 伊勢市役所東館4階 4-4会議室

出席者(敬称略)

山本 智子	山川 一子	牛江 康子	下野 功純
秋山 則子	白神 慶助	池山 文佳	竹内 千恵子
中村 弥生	早川 千奈美	東 剛寛	中村 尚美
杉本 公紀	赤坂 知之	長田 伊央	

事務局 環境生活部参事 浦井 由紀恵
市民交流課副参事 日置 純子
市民交流課 大野 明子

傍聴人 なし

内 容

1. 開会

副市長あいさつ

委員交代について

2. 第4次伊勢市男女共同参画基本計画(れいんぼうプラン)案について

(1) 諮問書の交付

(2) 概要説明

3. 令和3年度伊勢市男女共同参画基本計画 実施状況報告書(案)について

4. 男女共同参画推進事業者等表彰選考委員会の設置について

5. その他

6. 閉会

【発言内容】

1. 開会

(1) 副市長あいさつ

(2) 委員交代について

- ・ 事務局より委員の交代について説明。（山本はるみ委員に代わり、池山文佳委員が就任）

2. 第4次伊勢市男女共同参画基本計画（れいんぼうプラン）案について

(1) 諮問書の交付

- ・ 藤本副市長から山本会長へ諮問書を交付。
- ・ 諮問書の交付があった後、公務の都合により副市長は退席。

(2) 概要説明

説明

- ・ 事務局より、資料1「令和4年度第1回伊勢市男女共同参画審議会 議案について」に沿って説明。

意見及び質問

委員 策定にあたって、公聴会は行うのか。

事務局 パブリックコメントの公募は行うが、公聴会は開催しない。

委員 集まった意見について、公開するのか。国のようにオンラインで意見を述べる事ができると良いと思う。

事務局 頂いた意見に対する回答は公開するが、公聴会という形式では行わない。

委員 SDGsのジェンダー平等の項目について、ターゲットは9つあるが、どれを主とするのか。

事務局 すべてのターゲットについて触れることを想定している。

委員 ジェンダー平等のターゲットについては、主にイスラムやアフリカを想定したものであり、これらすべてを対象とするのは日本では現実的ではない。どれを中心にするのか明確にして推進しないと実現しないものとなる。

会長 事務局、委員とも、次回までにSDGsの考え方について整理し、次回の審議会で再度検討する。

3. 令和3年度伊勢市男女共同参画基本計画 実施状況報告書（案）について

説明

- ・ 事務局より、資料2「令和3年度 伊勢市男女共同参画基本計画 実施状況報告書（案）」に沿って説明。

意見及び質問

- 会長 参考資料1のアンケート調査結果は分析中と考えてよいか。
- 事務局 アンケートは今後計画を策定するためにクロス集計や国、県との比較を行う予定。今回はホームページにおいて公表する内容をまとめたものという位置づけとなっている。
- 委員 3ページの「①男女共同参画に関する広報・啓発の充実」について、例えば教育分野における男女共同参画についての子どもたちの取組などはとてもしっかりと実施されているので、それを周知するための分かりやすく簡単に読める資料が、市役所などで手に取れるよう置いてあれば良いと思う。ホームページは改善されたと思う。
- 委員 8ページの市内事業所への取組ということで、企業訪問をされているが、男女共同参画を実践できている事業所とできていない事業所があると思う。事例をまとめて、取組が進んでいないところに提案すると良いと思う。労働組合があるところではある程度考え方が浸透しているが、組合がないところは知らないこともある。連合でも、主に役員や組合員の性別の比率に関する目標がある。男女共同参画の考え方は分かっているが、プロセスが難しく進んでいないのが実情である。ロールモデルの人の話を聞くと参考になるので、市の内部でも管理職になった女性職員の生活やプロセスについて広めると、若い女性の目標になりやすいのではないか。今回の報告書については特に問題はないが、今後の取組としてそのように感じている。
- 委員 教育について、5ページ③の下線部について、コロナの影響で現地に行く学習ができなくなったが、動画の活用やオンラインでのインタビューなどの工夫を行っている。人権作文の取組についても、今年度も継続して実施していく。17ページの性に関する部分も、記載されているような学習を継続していく。また中学校の制服について、今年度、女子生徒がパンツタイプを選べるようになった。男女という垣根ではなく、その人らしい選択ができるようになってきた学校もある。
- 委員 11ページの女性の就労について、再就職支援を行っており、マザー

ズコーナーを設置し子連れでも利用できるよう対応を行っている。ハローワークでもオンラインでの職業相談を実施しており、市とも連携をして対応していきたいと考えている。

委員 テレビの放送で、中学校のトイレを男女共用にする事例紹介があり、性の多様性についての一つの方向性かと興味深く視聴した。18ページの「VI 男女共同参画を阻害するあらゆる暴力の根絶」について、DVの被害者が子どもにまで広がってきているが、加害者は男性であるのに母親の責任にされているような事例もある。暴力については、被害者保護のため一元化した情報を持っていないといけない。市では個人情報保護をしても、病院や学校で情報が漏れる可能性があり、あらゆるところで個人情報をロックするネットワークを構築する必要がある。

委員 男女共用のトイレはあってもよいが、すべて共用にすることは性犯罪の観点からすると問題がある。8ページ、15ページで女性のリーダーが必要とされることについて、特に災害時が重要である。避難所のリーダーが男性だと、女性が問題を言えなくなる。そのような視点で女性リーダーが必要と考える。17ページの教育について、暴力を受けた際に身体反応によって動けなくなるようなことがあり、これを同意と見做されないような視点で、子どもだけでなく大人にも教育する必要がある。20ページ、21ページについて、公的機関に相談しづらい問題がある。被害者が精神疾患差別のような困難に直面することもあり、トラウマへの理解、傷つきを抱えた人の難しさを理解し、溝を作らないことが大事。このような女性の被害は小さく見られがちなので大きく捉えることが大事。

委員 働く女性について事業所のアンケートの8ページに、「女性従業員にいつまで働き続けてほしいと思いますか」という項目があるが、結果を見ると企業の中でその人らしい働き方に視点が向いていないと感じる。結婚を節目にして退職するなど女性の働き方を変える必要がある。実践している事務所もあるが、まだまだこの結果である。女性の中で自分を守るために子どもを産まずに働く、結婚しないなど、望む生き方を諦める女性が多くなり、出生率にも影響していると感じている。少子高齢化など国の問題もある中で、諦めずに取り組むしかないと思う。コツコツと企業訪問をして女性が働く意義を伝える作業を続け、振り返り、環境を整えることが大事である。市からこのようなデータを出していただくと現実に目を向けることができ、どうしていくべきか問題意識ができる。男女という別ではな

く人間としてどう社会と関わっていくのか。女性たちが諦めるのではなく、企業としてどうしていくか見直しにつなげていくことが必要であると感じている。

委員
委員

数字が出ていてわかりやすい。もっと勉強したいと思う。
消防団として災害時の避難場所は大変であると感じる。1日2日だけの避難ではなく長期になると、女性が着替えをするのも大変で、周囲の目をととても気にする。3.11の時の経験者から聞いた話では、一番大変なのが女性のプライベートの問題で、これは男性にはわからないという。避難生活が長期化し、ストレスが溜まると、トイレの覗き被害や洗濯物も干せないなど犯罪が心配になってくる。災害はいつ起きるかわからないので、明日は我が身ということで、自分達はどうするか考えており、消防団として災害時には近くの避難所に出向いて指示やアドバイスをしていこうという動きになっている。事業所アンケート5ページの係長以上の管理職及び女性管理職についての設問について、結婚や出産で職場を離れていた女性が40歳か50歳ぐらいになって自分を活かせる場所を見つけて、スキルを伸ばす人が増えている。データを見てみると中間的な役員の立場にいる女性も多く、事業主と従業員との間に入って勤めているのだと思う。

委員

男女共同参画は難しい問題で幅広く関連している。伊勢市というだけでなく、全国的、世界的にも女性に優しくなる方向で進んでいると思う。こうした取組を積み重ねることが大事である。

委員

災害時は女性だけでなく子どもも嫌がられることがあるので、普段から自分たちで、女性と子どもが避難できる場所を作ろうという活動をしている。全国的に防災の部署に女性が少ないという問題があるが、伊勢市では、本部だけではなく避難所にも女性が配置されることになっていて先進的だと思う。三重県の沿岸部は災害の危機意識が高い。大災害になると大きな避難所も入れないことになるので、自分たちが自分たちを守る必要がある。避難所についても住民が自主運営するにあたり、女性リーダーを養成する取組が全国でも進んでいる。防災をきっかけとして女性がリーダーとして対等に活躍できるよう、人を育てたい。

委員

男女共同参画は心の問題でもあり、今の状況下で厳しいと思うが、一歩ずつ進めていかなければいけない。見た目や人数も大事で、上にロールモデルがない問題があると思う。ロールモデルになる人が多くいると、それに続く人も増える。無理やりにでも増やす必要

がある。5ページの「③学校等における男女共同参画教育の推進」について、小中学校、幼稚園において子どもたちが自分らしく生きる教育の取組の具体例の記述があればよいと思う。

委員 子どもたちが自分らしく生きる教育については、自尊感情が高まる学習、自己肯定感を高めるよう、道徳をはじめ教育全般にわたって日常的に取り組んでいるので、具体例として挙げにくい。

委員 例えば、「一人ひとりが自己肯定感を高めて自分らしく生きる」というような言葉を足してもらえれば分かりやすいと思う。

事務局 文言を追加する。

委員 4ページにれいんぼう伊勢の取組があるが、令和3年度はコロナの影響で活動がやりにくかった。各委員のお話を伺い、これからもっといろいろなことに取り組まなければならないと感じており、一人ひとりの意識が男女共同参画の実現に関わっているとすると、れいんぼう伊勢の役割は大きいと痛感している。ロールモデルを探し出し、そうした人たちを支えながら、啓発を進めていくことができたらと考えている。

委員 異業種交流会は、他の業界や企業がどのように取り組んでいるのか聞くことができるので、非常に参考になる。

委員 商工会議所で異業種交流会は行っているが、男女共同参画をテーマにしたものはまだない。

委員 必ずしもテーマに定めなくても、話を持っていくこともできる。

委員 企業の立場だと、業績に関することに関心がいきがちなので、実施するならテーマを明確にした方がいいと思う。今後働きかけていきたい。

委員 総連合自治会において5月に総会を行った際、各自治会区長の名簿を確認すると、総数165名のうち、女性と思われる方は10名ほどいた。女性が2桁になったのは初めてで、大変喜ばしい。5年以上の役員に対する会長表彰も、初めて女性の受賞者があった。少しずつ改善されているということを報告させていただく。8ページのまちづくり協議会の役員についても、自然発生的には進まないで、方針を位置づけて訴えなければいけない。また中学校の女子の制服においてスラックスも選べるようになったが、大人側に固定観念があると感じると共に、自らを主張する生徒が出てきていることを感じた。女性校長も増え、校長、教頭ともに女性というケースも初めてあった。ロールモデルが出てきているというプラスの面を感じている。まだ課題はあるが、こうしたことを市民に広く知らせるのが

一番大事だと思う。

会長 この報告書を拝見し、昨年コロナ禍で見られた課題への対応が進んだと感じた。本日の各委員のご意見をまとめると、「令和3年度の具体的取組に対して一定の評価ができる。今後は、さらに啓発に努めつつ、各分野の工夫が必要である。」といった内容になるのではないかと思う。27ページの審議会による評価及び意見には、このように記載することでよいか。

(全委員承認を確認)

委員 今後の企業訪問の際には画一的にならないよう、いろいろな業種を訪問し、実態を掴んでほしい。企業側で受け入れが難しいという状況も分かるが、そういう所にこそ課題があると思う。

委員 アンケートの回答率が30%というのが残念に思う。このような回答率の低さは、市役所だけで取り組んでも難しい。回答を上げるような方策が必要である。パブリックコメントについても、カウンターに置いてあるだけで、本当に意見を求めているのか姿勢に疑問を感じる。

会長 企業の文化等も含め、進め方はいろいろあると思うので、そのような面も考えつつ審議を深めていきたい。啓発に努めることについては、様々な情報を取り入れ、SNSや動画などいろいろなツールの可能性を検討し、活用してほしい。

事務局 本日のお話を伺い、昨年度実施した取組で更に記載できるものがあることに気づいた。総連合自治会における男女共同参画に関する研修の実施や、市民アンケート送付の際に相談窓口一覧表を同封したことなども実施事業として記載したい。

4. 男女共同参画推進事業者等表彰選考委員会の設置について

説明

- ・事務局より、資料1「令和4年度第1回伊勢市男女共同参画審議会 議案について」及び資料3に沿って説明。

結果

- ・委員より事務局案について求められ、以下の5名を提示したところ、異議なしとして承認された。

山川委員、下野委員、中村委員、早川委員、東委員

5. その他

- ・次回の審議会は8月30日に行う。

【閉会】